

木犀（もくせい）

つま先あがりの坂をのぼっておいで
ゆるい角を曲がったら
貴美子の生垣が見える

ゆっくり近づいてごらん
橙（だいだい）色の花の悩ましい香りが
きみを包むよ

庭へお入り
そして貴美子が
低い豊かな声で
きみが生まれるよりずっと前の 古いふるい唄を
きみの知らないことばで唄うのを
眼を閉じて聴くがいい

夢うつつのうちに
木犀の甘ったるい香りが
きみの頭全部、いちばん後ろまで満ちたら
まぶたを開けるんだ
すると初めに見たものが
きみの心に一生棲（す）みつく

貴美子の瞳